

令和3年度 学校評価実施報告書

教育目標

『自と他を大切にできる豊かな人間性と自律して社会を生き抜く力の育成』
～教職員・生徒・保護者・地域が連携して、知恵と力を合わせて誇れる学校を創る～

年度末の最終評価

自己評価

教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し

コロナ禍の何の中で翻弄されないように、帆をしっかりと立てて進んできた。予想される事態を見越して副題として学校教育目標に加えた部分が、まさに功を奏したと言えるのではないかと考える。新学習指導要領の完全実施とGIGAスクールの推進が大きなテーマであった今年度、学習指導要領では、評価との整合性に最初、戸惑うところもあったが、2学期以降、OJTなどによる研修の結果しつつある。GIGAスクールについては、皮肉なことにこのコロナ禍が続いていることにより、進んでいっている。特に、3学期以降に学校現場を襲っている学級閉鎖等による自宅待機者の増加は、GIGA端末の持ち帰りやオンライン授業を推進する結果となった。コロナ禍で唯一良かったところは、この部分と考える。

学校教育目標の「自」と「他」を大切にできるという部分で、周囲の人たちに対して思いやりの心や尊敬の念を持って接することの大切さと共に、自分を大切にする、心や体の健康状態を自分でしっかりと管理できるように伝えてきた。様々な情報が飛び交う中で、何が一番正しいことなのか、しっかりと見極める力を付ける必要がある。

本校生徒に付けたい資質・能力については、「自分の意見や考えを伝える力」を引き続き、様々な場面で意識し、スキルアップを目指してきた。対面での展開が制限される中、GIGA端末でのアプリを使っの意見や感想のやりとりで、どれくらい効果があるのか検証を進める必要がある。また、「伝える力」の定着が進む中で、「汲み取る力」そして、「つながる力」への発展を進める考えである。コロナ禍で連携しにくい状態ではあるが、ICT技術を駆使して、小学校との繋がりも大切にして、進めていきたい。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

コロナ禍の中で、書面での開催となったが、中間評価でも述べたように、学校の現状と教職員の取組の内容については、高評価をいただいている。

後期の学校評価での生徒の高い評価に対して、保護者の評価が厳しいものになっていることに対して、コロナ禍の状況での不安が表れているものと考え、PTA活動や地域活動の停止もそれに拍車をかけているものと考え、今後の支援を考えて行きたいとのこと。